

宇佐神先生、

いつも議事録や、豊富な資料をありがとうございます。

学内の業務が依然と続き、己の研究に時間が取れない状況です。

目下「財界人の歴史、機能、責任」について研究中です。

経営倫理はだれにとっての倫理か？ 社員が守るべきか、経営者か。業界か？ さらに経済界を代表する財界もあります。

企業家、経営者が直ちに財界人とは言えず、財界人とは特定の企業・業界の利益を代表するのではなく政治への影響力を行使する総資本の代表と簡単に定義できると思います。

現在は、経団連など財界3団体の幹部が財界を形成しております。

2代の石坂泰三、4代の土光敏夫、7代の平岩外四などが財界総理として発言力、影響力が行使し、存在感を示したことは有名です。

経団連会長は無報酬で、バックの会社が資金を担当するそうで、トヨタ出身の会長の時は、年間10億円も出し、出身母体の会社が儲かることはあえて慎んだそうです。自産業に利益誘導するとすぐにマスコミに叩かれるということで、儲からない立場のようです。利益と倫理との観点から興味深い事例です。

企業倫理に力を入れ始めたのは、平岩外四会長で、共生理念をキーワードとし始めました。それを豊田章一郎会長がそれを継承しました。

(古賀純一郎『経団連—日本を動かす財界シンタクタンク—』新潮社、2000年 参照)

何かヒントになれば幸いです。

村山元理

(2013年2月7日受信)